

3月のスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13 卒検式	14	15
16 乳児健診	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

しぜんの国の本ができました。



紘良理事長のエッセイでも触れられていますが、しぜんの国の本が発売中です。保護者の皆様からいただいた疑問をまじえたQ&Aや、先生たちのオススメの本もエピソードを交えて紹介しています。全国の書店やamazon.co.jpでも購入できますが、職員室にもありますので、ご興味があればぜひお手にとってご覧ください。

「すべて、こども中心。」しぜんの国保育園から知る、こどもの主体性を大切にしながら家族が豊かに暮らす方法

¥1,430 (税込) *単行本・kindle版

保健師より

今年の冬は暖かく、芝生広場の河津桜もあつという間に咲いてひと足早いお花見を子どもたちと楽しみました。暖かくなると花粉症が気になりますね。最近は子どもの花粉症も増えています。風邪とは違う透明な鼻水や、目の痒みなどの症状が出てきたら早めに耳鼻科受診することをおすすめします。今年度もあと1か月。新年度も良い形でスタートできるよう、この3月も子どもたちの健康状態に気をつけていきたいと思えます。

2月の感染症
流行性感染症の発症はありませんでした。

0歳児健診 3月16日(月)9時半～
つばみぐみの皆さんは出来るだけ
お休みされないようお願いいたします。

March 2020

2020.3.1発行

small alley post

東香会

保育理念 『いきいき』

合言葉 『すべて子ども中心』

基本保育方針

『私たちは、今ここで「こどもたちのたからもの」を大切にします』

『地域で安心して子育てができるように！』

『子どもの成長、発達に寄与する人はすべて保育者』

3月の保育主題

『ふくらむ心に 夢の花』

1年のまとめ 次年度の助走

「子どもの窓辺から」

新しい春の訪れですね。

新型コロナウイルスの影響で、いつもとは全く異なる季節感の3月です。国からの要請はいろいろとありますが、自分たちの力で頭を使い乗り越えてゆきたいものです。

さて、話は変わりますが、みなさんは和時計というものをご存知でしょうか。江戸時代あたりまでこぞって使われており、当時の時間制度をもとに作られた時計です。現在の洋式時間制度よりも複雑で分かりづらいものですが、個人的にはとてもしっくりとする概念です。

簡単に説明してしまうと、年中全ての1日を24等分して昼も夜も均等に均したのが洋式です。一方、夏と冬では昼と夜の時間の長さが違いますが、これを表現している時間が和式です。つまり、夜明けの時間（卯）と日暮れ（酉）の時間は季節によって違うが、太陽が出たら卯時、沈んだら酉時と呼んでいたのですね。これは“暮らし”を基準にした時間軸で生活していた当時の哲学が反映されています。

現代に例えると、夏と冬では仕事の定刻が変わるということでしょう。なんだか「冬はすぐ暗くなるから早く働こう」とするのは自然のように感じてしまいます。こういうことが良いワークライフバランスではないかなあ。

////////////////////////////////////

以前、アンケートなどで皆さんにもご協力をいただきましたが、2020年2月28日に、しぜんの国の書籍「すべて、こども中心。」が角川書店より発売されました。

昨年11月ごろから急ピッチで進められたこの企画ですが、数万字のエッセイを一気に書き終えなければならず、嗚咽を交えながら年末年始を過ごした記憶があります。

書き始めた当初は、かなりカタい文章でしたが、多くの職員の原稿や推敲によって、軽すぎず重すぎないバランスの取れた内容になったように感じています。とはいえ、これまでのしぜんの国の取り組みや想いを存分に込めたので、もしかすると独特な表現を使っていたりして読みにくいところもあるかもしれません（Amazonのコメントがおそろしい...）。

内容は、しぜんの国の成り立ち、理念、「表現と言葉」「自然と現象」「暮らしと社会」、そして各園長からのエッセイや保護者と職員によるQ&Aなどを載せています。

町田、渋谷、世田谷の3つのしぜんの国は、それぞれ独自の活動内容を持っていますが、どの園も共通するのは、メソッドに頼ることなく、集まった人々（保育者、保護者、地域など）の想いによって変化し続ける場作りです。変化し続けるということは悩み続けることでもあるので、一見不安定なように思えますが、悩みを抱えると必然的に頭を使う。頭を使い続ける大人が近くにいることで、子どもたちも思考しながら成長してゆけるのだらうと感じています。

保育界の方々はもちろんですが、多種の方々に読んでもらえれば本望です。

*この場をお借りして、しぜんの国の過去現在すべての子どもたちに感謝をお伝えしたいと思います。みなさんがいなければこの本は生まれませんでした。

渋谷東しぜんの国こども園 理事長 齋藤 紘良

保育エピソード「Sさんのお家だよ」

ログロードまで行く道中で井戸がある。その井戸が珍しいのもあり、必ず中を覗く姿がある。今日も覗き「おーい」と叫び、声が反響するのを楽しんでいた。「ねえねえ、誰かうつついていない？」と声をかけると「うーん??」と背伸びして中を覗くみんな。私が手を振って「井戸の中の人も手を振っているね。誰だろうね」とそんなことを聞いてみると「・・・Sさん!」とKくん。「え?!あれSさんなんだ。おーいSさーん」と手を振ってみるとみんなも「Sさーん」と手を振る。「Sさん、いたね」とMくん。「ここはSさんのお家だよ」とKくん。想像力を広げながら会話を繰り返す姿が何とも面白い一場面だった。想像力が広がってきた姿が多くなってきているので、絵本を読んだりしながらその姿を伸ばしていきたい。

今月のsmall alley play ground ピックアップスポット

東塔堂（古本屋さん）

並木橋から徒歩数分の場所に、東塔堂という古書店があります。デザイン本や写真集などを専門に扱っており、不定期でギャラリー企画も開催されています。店員さんもフレンドリーで、旅行の話などで盛り上がります。神保町に行くところといった専門書店があるのですが、渋谷周辺では貴重な存在ではないでしょうか。渋谷の喧騒から離れたところに位置しているのですが、このお店が面している通りを南平台の方に歩いていくと、美味しいご飯屋さんやお菓子屋さんが点在しており、見目が面白いレトロマンションもあります。（昭和時代なぜかちょっと大きい家に植えられがちであった、ガジュマルの木が庭にあるんですがなぜガジュマルだったんでしょうね…）車の通りも少なめなのでお散歩にもオススメです。

